

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	A	配分額	600,000 円
研究課題	在日女性と教育－活動中の人物事例から考える教育の役割と成果		

研究代表者

氏名	李 修京	所属	人文社会科学系	職名	准教授
----	------	----	---------	----	-----

研究分担者

氏名	井竿富雄	所属	山口県立大学	職名	教授
	趙 栄順		『地に舟をこげ』『鳳仙花』		編集委員長

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

この研究はマイノリティーとして生きてきた在日女性たちの子育てに対する意識や教育の在り方、彼女らにとっての教育の位置づけ、さらにはそういった教育環境を生み出した時代背景について考察するものである。「教育が社会に及ぼす影響」の一環として、「在日」という日本の植民地支配と戦争によって派生した特殊なカテゴリ・空間の中で、戦後の日本社会の変遷とともに子どもの教育を自分の「生き甲斐」はもちろん、子どもらの「生きる術」として教育的投資を行ってきた。換言すると、既存の献身的母親の在り方を実践してきた彼女らの生き様や教育観、その結果などについて追究したものである。

そのため、多くの在日1世～4世までの人々のインタビューや彼女らが残した(すでに故人となった方々の)証言集の確保や資料収集にできる限り努め、さらには実際に在日の母として子どもの教育に尽力してきたいわゆる特別永住者(戦前に来た在日コリアン)と、戦後に日本に来て在日30年になる韓国人の子育て方について、本学で講演を設け、その証言を聞くことができた。但し、戦前(厳密には韓国・朝鮮戦争前後)には一つの民族であった韓半島が韓国戦争後、南北に分断国家となっているため、北朝鮮籍の女性を招待するのは出来なかった。そのため、戦前の朝鮮籍か、戦後の韓国籍の女性のインタビューが多く、戦後の北朝鮮籍になった方々の証言などは出版物や関連メディアの方々の間接的証言が多いのが現状である。そのため、本研究では以下の対象を主に考察している。

- 1) 戦前に渡日した人で特別永住者、朝鮮籍になっている2～4世
- 2) 戦後、韓国籍でニューカマーとしての在日女性
- 3) 北朝鮮籍になっている在日女性は基本的に出版物の証言・資料を考察

さらに、在日1世は存命中の方が極めて少ないため、また、高齢者であるため、インタビューについては関係者・家族らによる制限もあり、今回直接インタビューは行っていない。そのため、主に上記の研究対象のみを考察している。その結果、1)と2)との間における教育観や意識の違い、育った環境の差異、南北の政治的環境から派生する様々な違いなどを確認することができた。また、特別永住と言われる戦前の在日には儒教という女性の抑圧構図と植民地という空間から来る家庭的不安定が強く見られ、解放後の混沌とする異国での多重の苦労の中で、子どもの教育に一抹の希望を抱き、教育を生きる術としてきた人が多かった。そういった側面からの時代状況の分析、あるいは政治的環境による大きな教育観の違いの考察、また、苦境にさらされた時の「考える生き物」としての人間の希望となる「教育」の社会的役割を確認することができた。

今世界にはさまざまな内戦・紛争状態などで教育環境とは程遠い世界が多々ある。

そういった場所も含めて、社会を健全に発展させるためには教育が如何に必要か、如何に教育環境を構築すべきかについても今後の課題として深く掘り下げる必要がある。さらには「平等な教育機会」の重要性についても確認することができた。

なお、今回は主に在日女性を研究対象にしたが、本研究の延長線上で今後、社会的マイノリティーや開発途上国、もしくは戦時状態の社会など、混沌とする社会状況における教育の在り方、または関わり方、多様な教育的支援などをも考え、実践的教育活動の可能性についても今後、積極的に研究を進めたいと改めて考えさせられた研究となった。

研究成果発表方法

この課題は出版を見込んだ研究であるため、まずは事例を数回に分けて論文として発表し、最終的には出版物として刊行するつもりである。現在、申請者関連の日本社会文学会での発表などをもくろんだ論文作成中であり、本の構成も同時併行中である。